

株式会社トーア紡コーポレーション

令和8年12月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

（令和8年1月1日～令和8年6月30日）

令和8年8月10日

暮らしと社会の明日を紡ぐ

TOABO

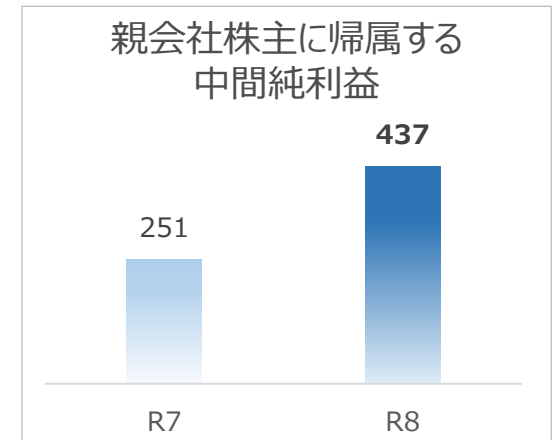
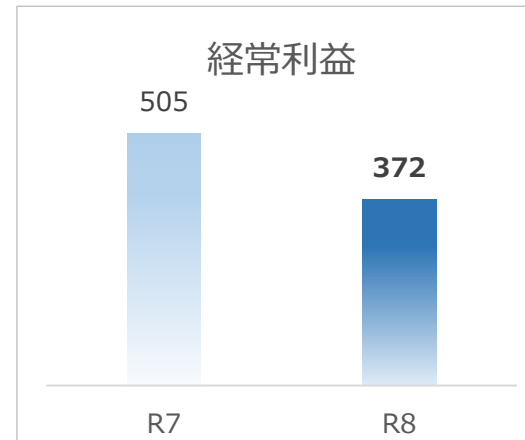
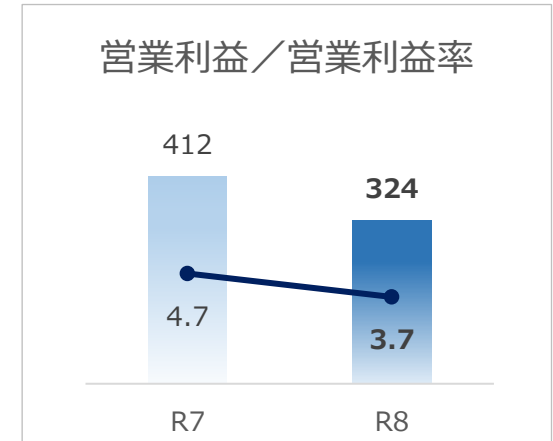
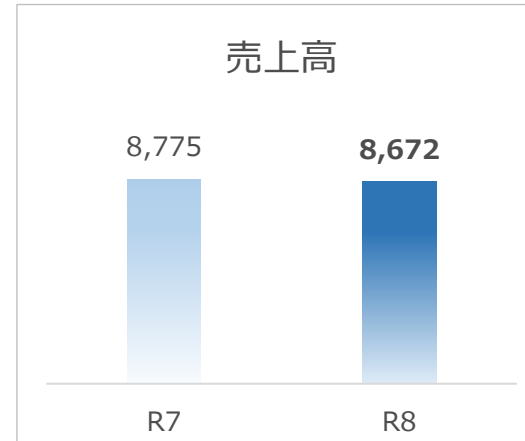
証券コード：3204

<https://www.toabo.co.jp/>

▶ 令和8年12月期 第2四半期（中間期）業績	P. 2 ~ 11
▶ 令和8年12月期 業績予想	P.12
▶ トーア紡グループのSDGs	P.13 ~ 15
▶ トピックス	P.16
▶ 免責事項	P.17

第2四半期（中間期）連結決算概要（金額：百万円）

	第2四半期(中間期)累計		前年同期比 増減率
	令和7年 12月期	令和8年 12月期	
売上高	8,775	8,672	△1.2%
営業利益	412	324	△21.3%
営業利益率	4.7%	3.7%	△1.0pt
経常利益	505	372	△26.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	251	437	+73.9%



前年同期比で減収、営業利益・経常利益は減益、
親会社株主に帰属する中間純利益は政策保有株式の縮減により増益

第2四半期（中間期）セグメント別業績（金額：百万円）

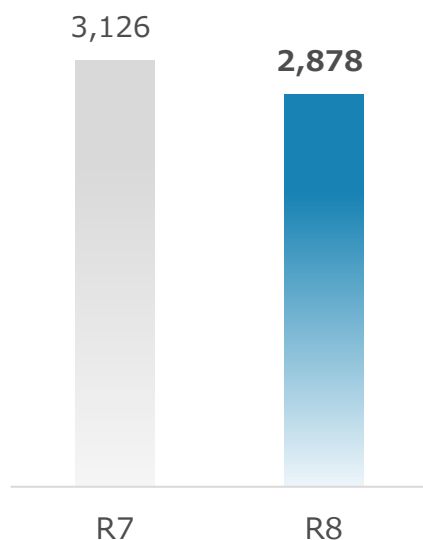
	第 2 四 半 期 （ 中 間 期 ） 累 計						前年同期比 増減率		
	令和 7 年12月期			令和 8 年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣 料 事 業	3,126	253	8.1%	2,878	97	3.4%	△7.9%	△61.5%	△4.7pt
インテリア 産業資材事業	3,570	67	1.9%	3,588	181	5.0%	+0.5%	+168.6%	+3.1pt
エレクトロ ニクス事業	529	△4	—	641	△5	—	+21.2%	—	—
フ ァ イ ン ケミカル事業	702	60	8.6%	653	20	3.1%	△6.9%	△66.4%	△5.5pt
不動産事業	447	261	58.5%	441	253	57.4%	△1.4%	△3.3%	△1.1pt
そ の 他	399	△32	—	468	△22	—	+17.4%	—	—
調 整 額 （ 販 管 費 等 ）	—	△194	—	—	△199	—	—	—	—
合 計	8,775	412	4.7%	8,672	324	3.7%	△1.2%	△21.3%	△1.0pt

第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要（金額：百万円）

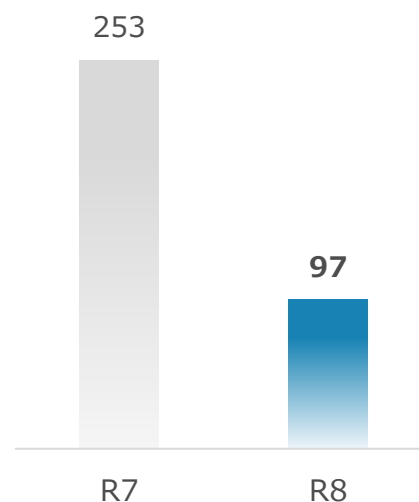
衣料事業

		(前年同期比)
売上高	2,878百万円	△7.9%
営業利益	97百万円	△61.5%
営業利益率	3.4%	△4.7pt

売上高



営業利益



業績概要

毛糸部門

- ▶ 羊毛相場の高騰により受注が不調で減収

ユニフォーム部門

- ▶ スクール制服向け素材およびニット製品は、スクールアパレルの在庫調整の影響が未だ収束せず減収
- ▶ 官公庁制服向け素材は、別注案件の減少と調達量の減少により減収
- ▶ 企業制服向け素材は、追加受注の不調により減収

テキスタイル部門

- ▶ 新規案件の獲得により増収となったが、為替の影響と羊毛相場の高騰により損益は改善せず

毛糸製造販売を主体とする中国現地法人

- ▶ 日本向け受注の減少により減収

第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要（金額：百万円）

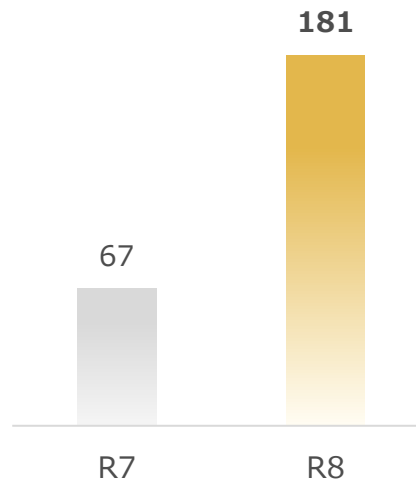
インテリア産業資材事業

		(前年同期比)
売上高	3,588百万円	+0.5%
営業利益	181百万円	+168.6%
営業利益率	5.0%	+3.1pt

売上高



営業利益



業績概要

自動車内装材部門

- ▶ 受注車種の生産販売が好調に推移し増収となったが、原材料価格、電力費、光熱費の高騰に対する価格転嫁の遅れ等により減益

ポリプロファイバー部門

- ▶ 自動車内装材用原綿、カーペット用原綿の受注が順調に推移し、価格転嫁も円滑に行えたため増収増益

カーペット部門

- ▶ 需要の停滞と価格転嫁の遅れにより減収減益

特殊繊維部門

- ▶ 設備のメンテナンス、人材育成の進捗により増収

不織布部門

- ▶ 防草、寝装、緑化、複合資材と全体が順調に推移し増収増益

※自動車内装材製造販売の中国現地法人

- ▶ 持分譲渡により当期の売上高はありません。

第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要（金額：百万円）

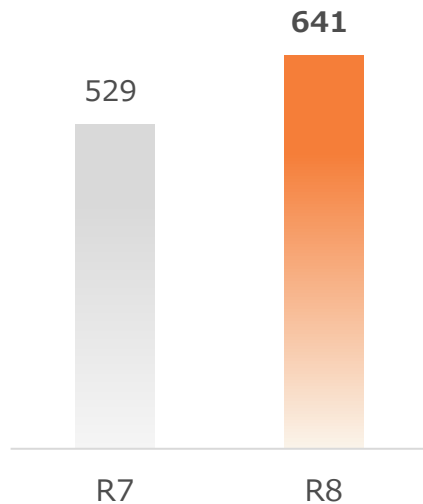
エレクトロニクス事業

売上高	641百万円	(前年同期比) +21.2%
営業損失	5百万円	前年同期は 営業損失4百万円
営業利益率	—	前年同期も利益なし

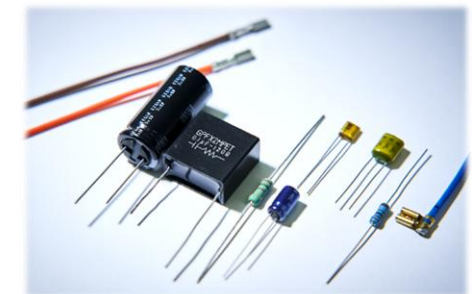
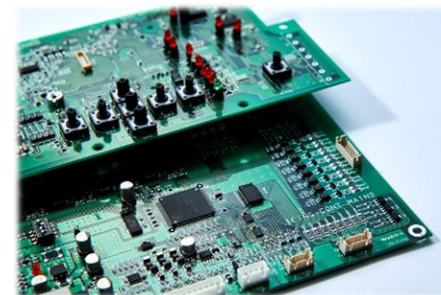
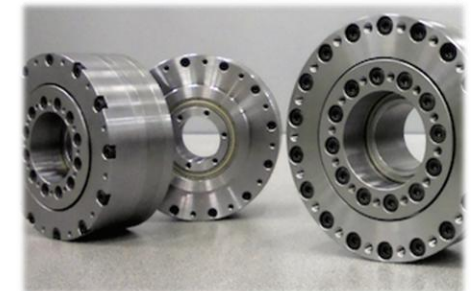
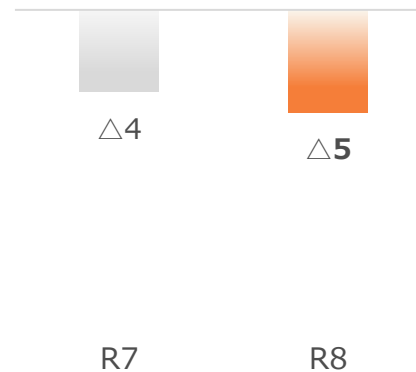
業績概要

- ▶ 主力の電動工具向けコントローラーの販売は前年並みだったが、IC単体の販売が大きく躍進
- ▶ 産業機器分野では、AIデータセンター向けの半導体および電子部品の販売が好調に推移し、増収

売上高



営業利益



第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要（金額：百万円）

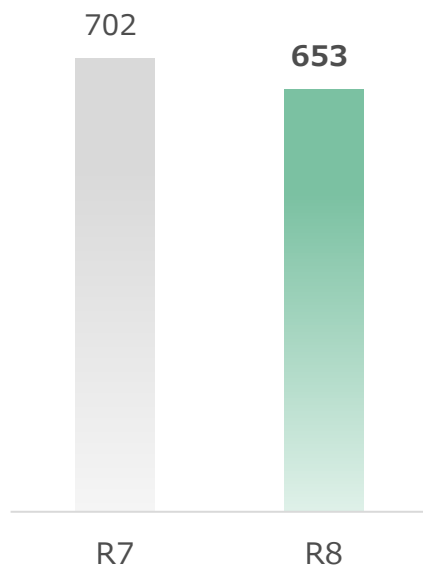
ファインケミカル事業

売上高	653百万円	(前年同期比) △6.9%
営業利益	20百万円	△66.4%
営業利益率	3.1%	△5.5pt

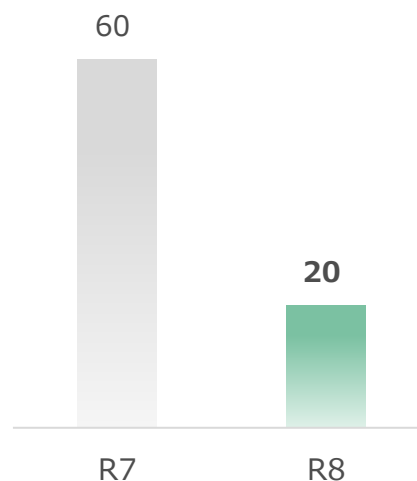
業績概要

- ▶ 電子材料分野は、半導体関連向けの生産販売が堅調に推移
- ▶ 機能性材料は顧客先の設備トラブルと海外原料の調達難により減産を強いられ減収

売上高



営業利益



第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要（金額：百万円）

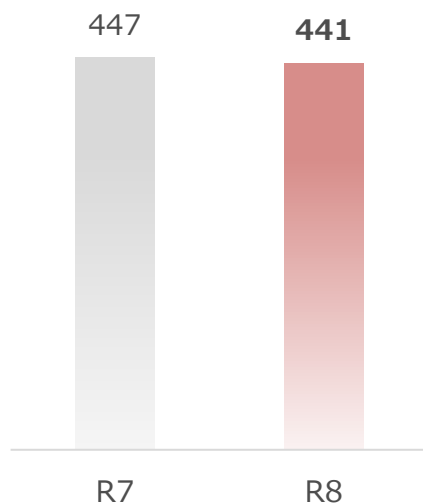
不動産事業

		(前年同期比)
売上高	441百万円	△1.4%
営業利益	253百万円	△3.3%
営業利益率	57.4%	△1.1pt

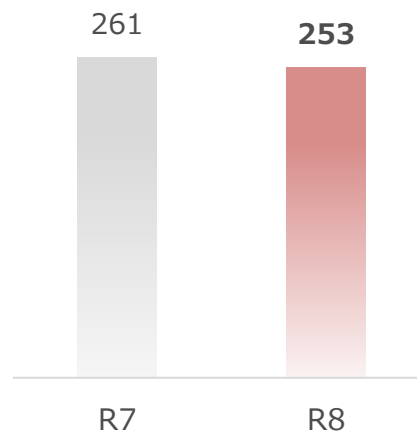
業績概要

- ▶ ショッピングセンターのテナントの一部が撤退した影響を受け、減収減益

売上高



営業利益

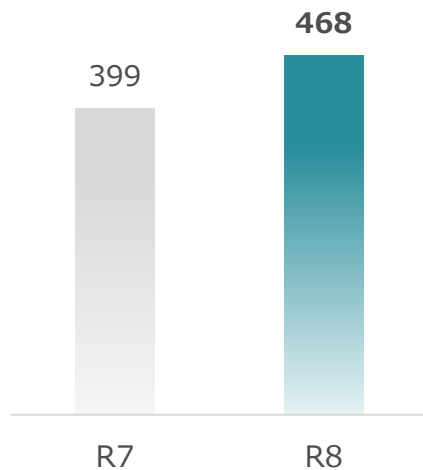


第2四半期（中間期）業績 セグメント別概要（金額：百万円）

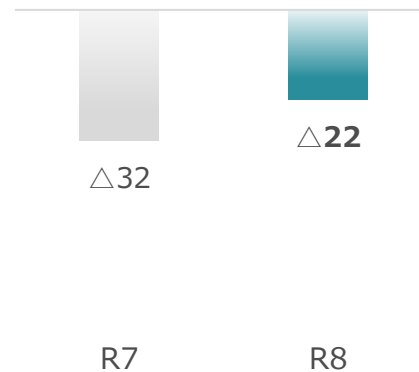
その他の事業

売上高	468百万円	(前年同期比) +17.4%
営業損失	22百万円	前年同期は 営業損失32百万円
営業利益率	—	前年同期も利益なし

売上高



営業利益



業績概要

自動車教習事業

- ▶ 前年好調だった湖西校の入校生数が伸び悩み減収

ヘルスケア事業

- ▶ 子会社のムサシノ製薬では強壮剤などの販売が好調に推移し増収となったが、全体では化粧品分野の販売が伸びず減収

洋菓子店の運営事業

- ▶ 店舗売上の増加により増収



第2四半期（中間期）業績 連結貸借対照表サマリー



	令和7年12月	令和8年6月	増減
流動資産	10,750	10,353	△397
固定資産	23,558	23,882	+324
資産合計	34,309	34,236	△73
流動負債	7,984	7,162	△821
固定負債	12,349	12,538	+189
負債合計	20,333	19,700	△632
株主資本	12,321	12,581	+260
その他包括利益累計額	1,653	1,953	+299
非支配株主持分	0	0	△0
純資産合計	13,975	14,535	+559
負債・純資産合計	34,309	34,236	△73
自己資本比率	40.7%	42.5%	+1.8pt

第2四半期（中間期）業績 連結キャッシュフロー サマリー



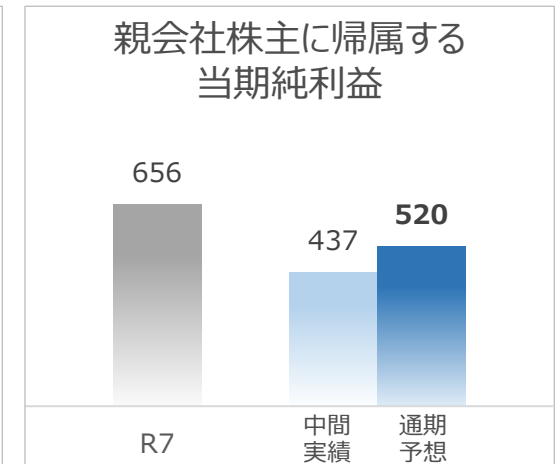
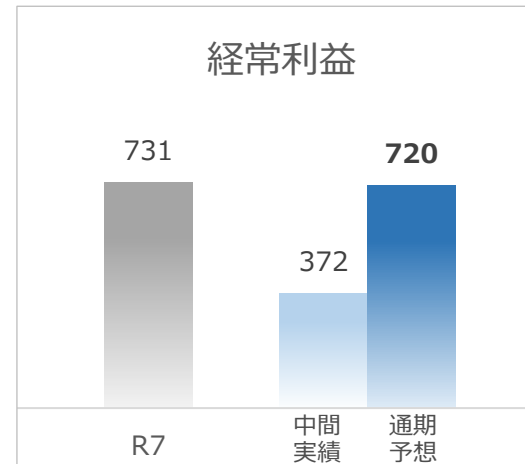
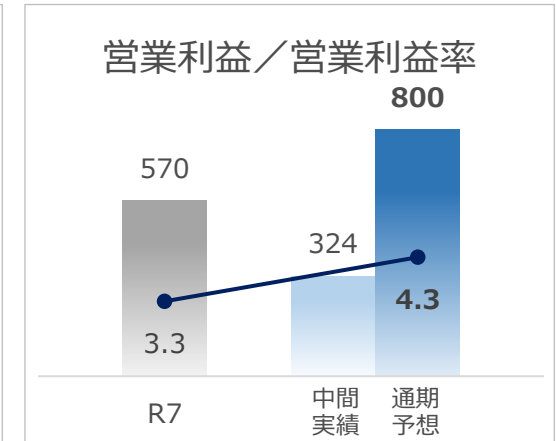
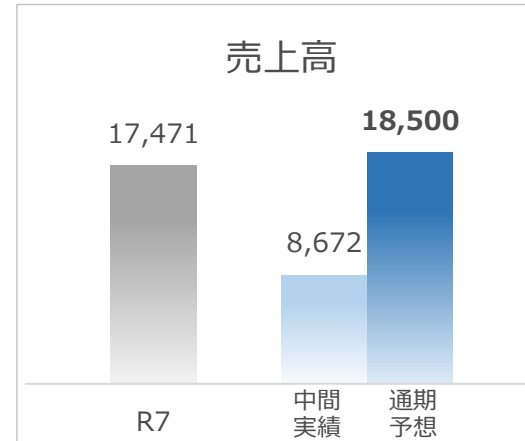
（単位：百万円）

	令和7年6月累計	令和8年6月累計	主な増減要因
純利益	605	667	営業キャッシュフロー 主な増加要因： 仕入債務の増加 238百万円 主な減少要因： 売上債権の増加 411百万円 棚卸資産の増加 61百万円
減価償却費	218	194	
運転資金	△775	△234	
その他	△543	△704	
営業キャッシュフロー	△494	△77	
設備投資	△152	△238	投資キャッシュフロー 主な増加要因： 子会社株式の売却による収入 511百万円 投資有価証券の売却による収入 381百万円 主な減少要因： 有形固定資産の取得による支出 231百万円
その他	292	840	
投資キャッシュフロー	139	602	
長・短期借入金増減	17	△802	
配当金	△113	△123	
その他	△6	△107	財務キャッシュフロー 主な減少要因： 短期借入金の純減額 840百万円 配当金の支払額 123百万円 自己株式の取得による支出 103百万円
財務キャッシュフロー	△102	△1,033	
キャッシュフロー増減	△492	△493	



令和8年12月期 業績予想概要（金額：百万円）

	実績	通期業績 予想	前期比 増減率
	令和7年 12月期	令和8年 12月期	
売上高	17,471	18,500	+5.9%
営業利益	570	800	+40.3%
営業利益率	3.3%	4.3%	+1.0pt
経常利益	731	720	△1.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	656	520	△20.8%



令和8年12月期通期業績予想は、中期経営計画通り

循環型経済（Circular Economy）への貢献

炭素繊維のリサイクル

トーア紡マテリアル株式会社は炭素繊維（以下、CF）のリサイクルに取り組んでおります。リサイクラーにて取り出されたCFは、ペレットや不織布等の原料利用など、軽量部材としての限定的な利用にとどまっております。取り出された「CFの利用」が課題となっております。

そこで、2026年3月まで岐阜大学、三重工業研究所と成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech事業）として、回収されたCFから疑似連続繊維化技術を開発し、再び炭素繊維強化プラスチックの原料となる部材を提供すべく共同研究を行ってまいりました。

昨年度の「連続繊維化技術」による紡績糸作製に続き、今年度は同材料を活用したUD（一方向連続繊維強化）テープの開発を進めております。この度、テープを連続かつ一貫工程で作製可能な独自装置が完成いたしました。これによりお客様からのご要望が多かった50cm広幅のサンプル作製を開始しております。

2026年6月10日 特許取得

Go-Tech事業の成果として本技術に関する特許を取得いたしました。（特許第7876045号）



国内CF取出し事業者（リサイクラー）

供給 ↓

短繊維の連続繊維化



リサイクルCF



熱可塑性繊維



混綿（複合化）

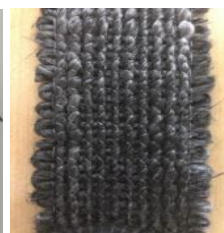


スライバー化

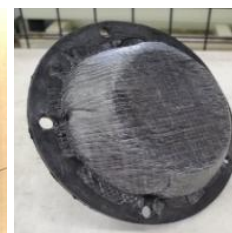
紡績からのアプローチ



糸
（一次元）



布
（二次元）



成型品
（三次元）

不織布からのアプローチ



UDテープ



成型品

TOABO

廃食用油から拓く、脱炭素と完全循環型ものづくりの未来

トーア紡マテリアル株式会社は、回収廃食用油を原料としたポリプロピレン繊維の開発・製造を通じて、気候変動対策と資源循環のイノベーションを推進します。単なる新製品の開発にとどまらず、素材の可能性を広げ、環境負荷低減に挑むことで持続可能な社会に貢献する、当社の「環境ソリューション」です。

脱炭素社会への貢献

廃棄されるはずだった「廃食用油」を活用。
製造工程におけるCO₂削減を実現し、バリューチェーン全体の脱炭素化をけん引します。

完全循環型ものづくりの実現（アップサイクル）

海洋汚染やゴミの要因となる廃食用油の回収から再資源化された高付加価値原料を調達・加工し、資源の循環利用に取り組んでいます。

国際基準を見据えた確かな信憑性

ISCC PLUS認証等、国際的なバイオマス認証取得を見据え、トレーサビリティが明確な原材料を使用し、厳格な管理体制のもと、信頼性の高いグリーン製品の製造・供給を目指します。

グローバルなサステナブル需要に応え、環境負荷の低減と事業の発展を両立しながら、持続可能な成長を推進してまいります。



トーア紡グループのSDGs

TOABO

環境配慮の仕組みづくり

GREEN WOOL

VALUE CHAIN

～CSR、環境負荷低減と経済性の実現～



尾州発の新たな環境基準の確立を目指して

東亜紡織株式会社と株式会社ソトーは、ケケン試験認証センターの協力のもと、SDGsの達成に向けて『GREENWOOLバリューチェーン』を立ち上げ、『CSR、環境負荷低減と経済性の実現』をミッションとして、羊毛業界のグローバルスタンダードを目指し、構築・運用を進めております。

現在、尾州の協力工場を中心に加盟が進んでおり、CSRの評価の実施や各サプライチェーンの使用エネルギーなどをモニタリングし、CO₂、産業廃棄物排出量の削減に取り組んでおります。

2026年度取り組み状況

- ▶ CO₂排出量を中心に環境負荷INDEXを作成中
- ▶ ブランド化の推進中
(アパレルへの提案を実施中)
- ▶ ウールリサイクル商品の開発を推進

トピックス

TOABO

大阪新薬株式会社「ケミカルマテリアルJapan2025」に出展

Chemical
Material Japan

大阪新薬株式会社が2025年11月27日（木）から28日（金）の2日間にわたり、東京ビッグサイトで開催された『ケミカルマテリアルJapan2025』に出展しました。同展示会は化学工業日報社が主催する、化学企業及び周辺産業が一堂に会する国内最大級の総合展示会です。当社はその中で素材を中心としたテーマで国内外の産官学が集う「先端化学材料・素材総合展」に出展しました。当社の研究開発動向や保有技術及び設備等についてご紹介を行い、強みである合成技術を広くアピールしました。当社の技術に関心を寄せられた多くの企業様から受託製造への対応可否についてお問い合わせをいただき、有意義な営業活動の場となりました。また、他社ブースにおける最新技術に触れることで研究のDX推進や将来の製品開発に向けた有益な知見を得る貴重な機会ともなりました。

前年に引き続き2回目の出展となりましたが、3回目となる今年の参加に向けて、現在準備を進めております。



▲来場者に説明する様子



展示会		フォーラム	
先端化学材料・素材総合展 新素材・技術で新たなビジネスを創出 環境配慮型素材、軽量化部材、ヘルスケア材料、半導体材料、バイオマープラスチック、ケミカルリサイクル、異種接合技術	化学物質管理ミーティング 化学物質管理にフォーカスしたビジネスマッチングイベント SDS、ラベル、GHS、化審法、REACH規則、混合物分類、有害性試験	プロセス産業DX展 プロセス産業向けにDXを推進するためのサービスを紹介 マテリアルズインフォマティクス、AI、IoT、OTセキュリティ対策、デジタルツイン、インダストリアルメタバース	産業安全フォーラム 生産現場の安全を多角的に考えるフォーラム

詳細は<https://www.chemmate.jp/>を参照

本資料中の業績予想、見通し及び事業計画に関する記述等は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

本資料・データの無断転用はご遠慮ください。
